

平成 26 年度「全国学力・学習状況調査」における 大桐中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 26 年 4 月 22 日（火）に、3 年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一侧面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
- ・大桐中学校では、3 年生 142 名

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・数学 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・数学 B】
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

(2) 児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大桐中学校

生徒数

142名

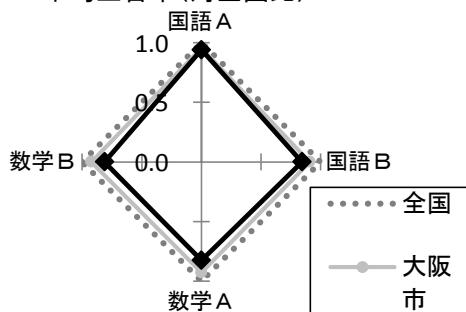
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	74.7	43.0	55.6	48.6
大阪市	75.9	46.3	62.5	55.2
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

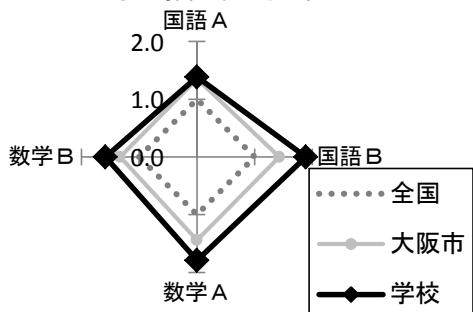
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	4.3	6.6	7.7	17.3
大阪市	4.2	5.0	6.2	14.5
全国	3.1	3.5	4.3	10.9

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



結果の概要

平均正答率をみると、国語Aについては 全国比4.7ポイント、大阪市比1.2ポイント、国語Bは 全国比8.0ポイント、市比 3.3ポイント、数学Aは 全国比11.8ポイント、市比 6.9ポイント、数学Bは 全国比11.2ポイント、市比 6.6ポイント 下回った。また、平均無回答率は全国、市に比し、国語Aは全国比1.2ポイント、市比0.1ポイント、国語Bについては全国比3.1ポイント、市比1.6ポイント、数学Aは全国比3.4ポイント、市比1.5ポイント、数学Bは全国比6.4ポイント、市比2.8ポイント高い結果となった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

各教科、TTの活用、放課後の補充授業、授業の補填等、生徒の指導に関してはさまざまな工夫を重ねてきている。しかし、全国的な学力調査等では、その成果が十分に発揮されていないのが現状である。

今回の全国学力調査では、全体的には正答率が高い生徒は少ないが、中間層の生徒数が全国や大阪市と比較して、高い割合を示しており、今までの取り組みの成果が昨年同様表れていることを示している。

今後の取り組みとしては、この中間層の生徒の学習に対する意識をさらに高めるとともに、家庭学習の習慣づけを一層行うことが必要である。そのためにも、今年度小中一貫教育の成果でもある「家庭学習の手引き」を効果的に活用せるように指導していくことが課題として挙げられる。

【国語】

結果の概要

国語に対する興味・関心において肯定的に回答している生徒は全国平均と比べても多く、意欲的に学習に取り組む姿がうかがえる。それにもかかわらず、「読む力」「書く力」の定着が低いのが現状である。

A 問題

平均正答率(%)
学校 大阪市 全国

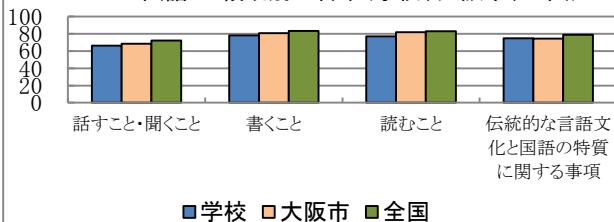
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	66.2	68.5	72.3
	書くこと	6	78.2	80.6	83.4
読むこと	5	77.0	81.8	82.9	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	74.8	74.3	78.7	

B 問題

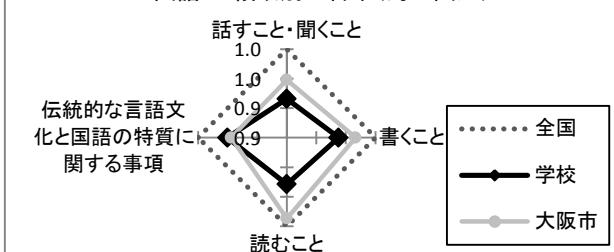
平均正答率(%)
学校 大阪市 全国

学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	—
	書くこと	3	29.6	33.6	41.0
読むこと	8	40.5	44.1	49.2	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	46.5	51.3	56.8	

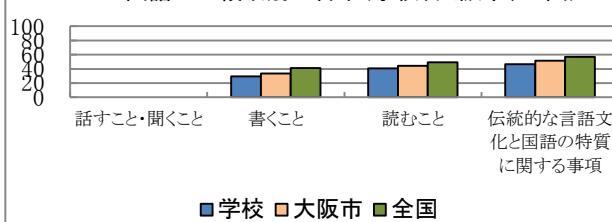
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



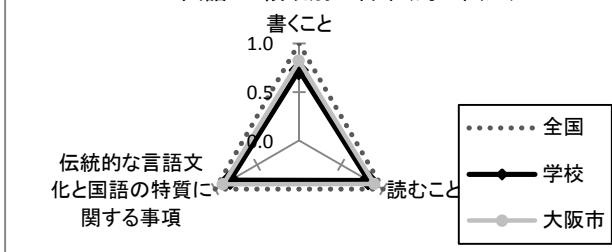
国語A 領域別正答率(対全国比)



国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



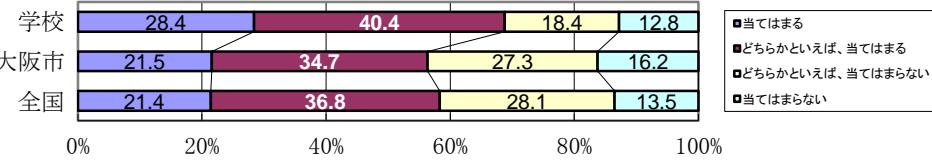
国語B 領域別正答率(対全国比)



国語に関する「生徒質問紙」

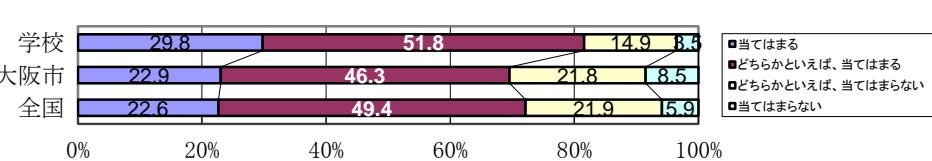
50

国語の勉強は好きですか



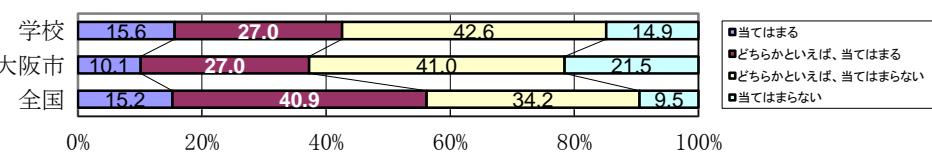
52

国語の授業の内容はよく分かりますか



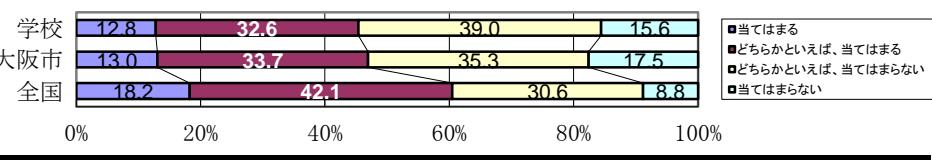
55

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



57

国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるよう気に付けて書いていますか



成果と課題

学習意欲を高める授業方法の工夫は「言語事項」や「話す・聞く力」の定着に効果が表れつつある。今後、「読む力」「書く力」を伸ばすためにさらなる改善に努めたい。

今後の取組

授業において、生徒が主体的に学ぶ意欲を高めるために、より一層研修を深め、工夫をするとともに、家庭学習の習慣を定着させていきたい。

【数学】

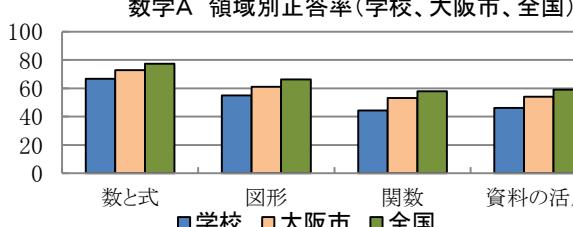
結果の概要

全国および大阪市平均と比べ本校は大きく下回っている。
より基礎・基本を大切にし、学力向上に取り組んでいきたい。

A 問題

平均正答率(%)

		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	12	66.8	72.8
	図形	12	55.0	61.2
	関数	8	44.3	53.2
	資料の活用	4	46.3	54.0

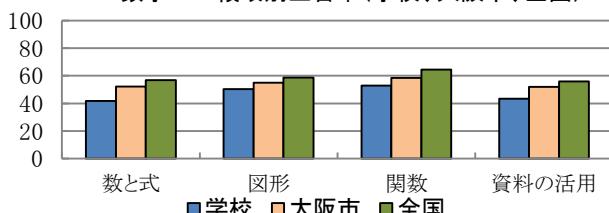


B 問題

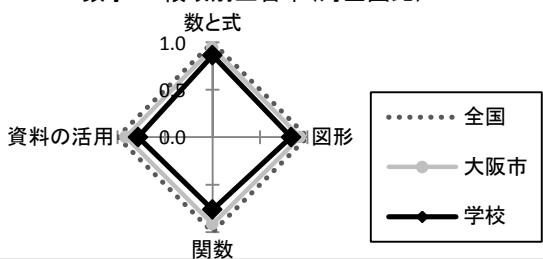
平均正答率(%)

	学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と式	3	41.8	52.1
	図形	5	50.4	55.0
	関数	5	52.9	58.5
	資料の活用	2	43.3	51.9

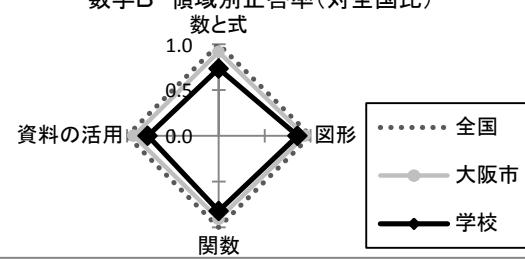
数学B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



数学A 領域別正答率(対全国比)



数学B 領域別正答率(対全国比)



数学に関する「生徒質問紙」

62

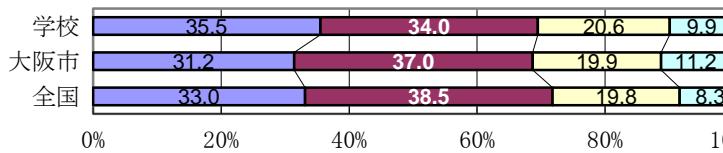
数学の勉強は好きですか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

64

数学の授業の内容はよく分かりますか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

67

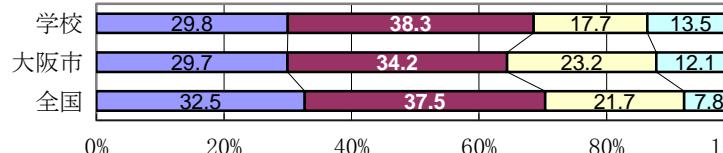
数学の授業で学習したこと
を普段の生活の中で活用で
きないかと考えますか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

70

数学の授業で公式やきまり
を習うとき、その根拠を理解
するようにしていますか



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

成績と課題

質問「64」、「67」、「70」では、前向きな回答になっているところはよいが、「62」が他と比べてよくない。

数学嫌いを少なくすることは学力向上の面からみてもとても大切である。

今後の取組

基礎・基本を徹底させるとともに、協同学習などを多く取り入れ、楽しく学んでいける環境づくりを

学びの充実に向けて(1)

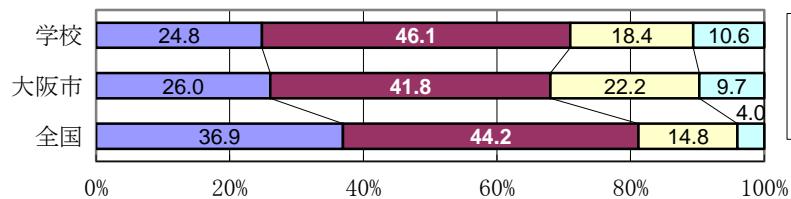
結果の概要

「1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」では、全国に比し10.2ポイント、「読書は好きですか」では6.3ポイント、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」では実に20.8ポイントの差がある。

質問番号 質問事項

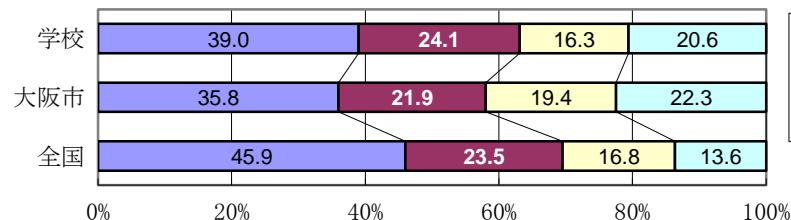
42

1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



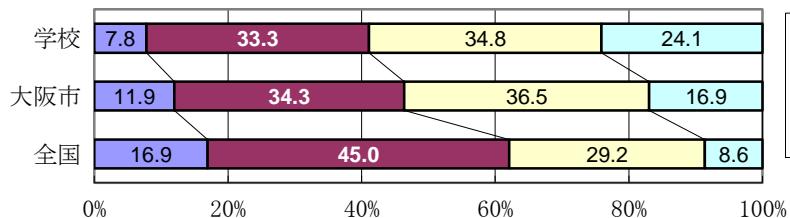
53

読書は好きですか



48

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



成果と課題

「読書は好きですか」の質問に対して本校は肯定的に回答している生徒が大阪市平均を上回っている。これは朝の読書の時間設定・実施の成果といえる。今後も引き続き読書活動を推進していきたい。

今後の取組

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう「学びの協同体」の考え方をもとにさらに充実させていく。

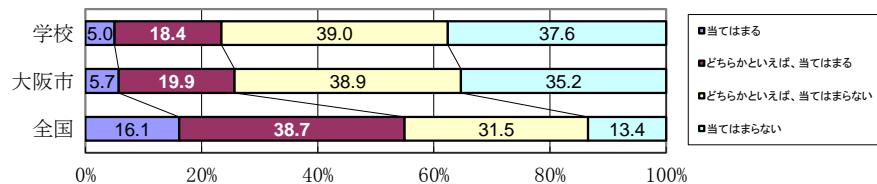
学びの充実に向けて(2)

結果の概要

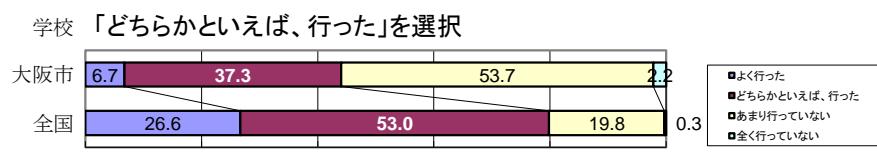
『「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか』では、全国比31.4ポイント、「1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」では15.7ポイント低い結果となった。

質問番号	質問事項
------	------

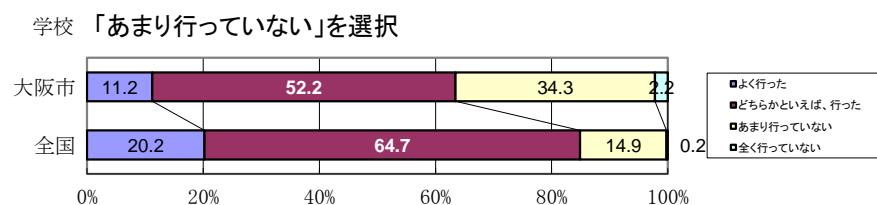
40
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



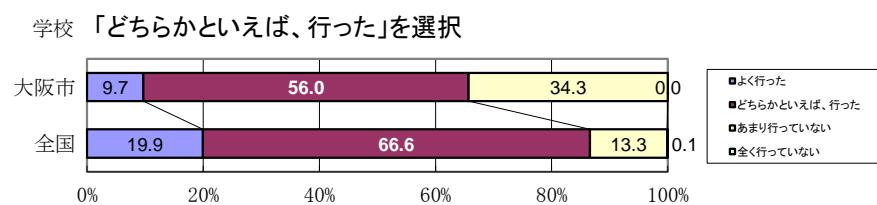
42【学校質問紙】
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



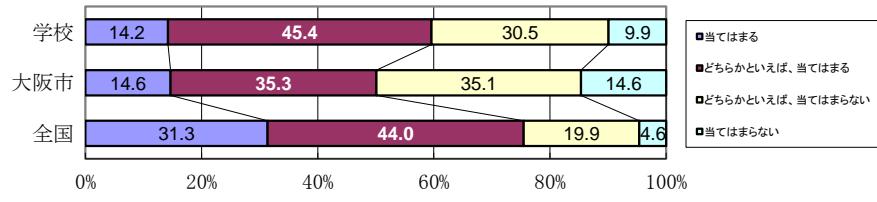
30【学校質問紙】
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか



41【学校質問紙】
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



43
1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



成果と課題
「1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」の質問に関しては大阪市平均に対して肯定的に回答している生徒が多い。これは「協同学習」を推進してきた成果である。

今後の取組

今後も学びの協同体の考え方をもとに、本校にあった形で推進していきたい。

基本的生活習慣

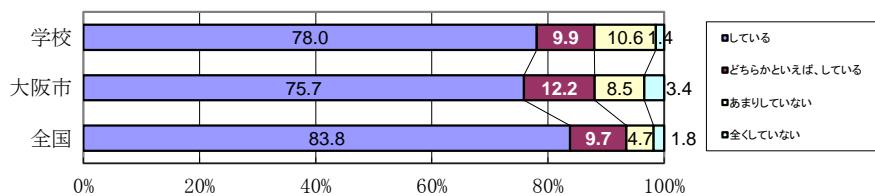
結果の概要

「朝食を毎日食べていますか」は、全国に比し、5.6ポイント、「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)」は、4時間以上は6ポイント、3時間以上4時間未満は1.8ポイント高く、「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか」では、4時間以上は3.9ポイント高く、3時間以上4時間未満は4.3ポイント低い結果となった。「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」においては、全国比2.9ポイント高い結果が出た。

質問番号	質問事項
------	------

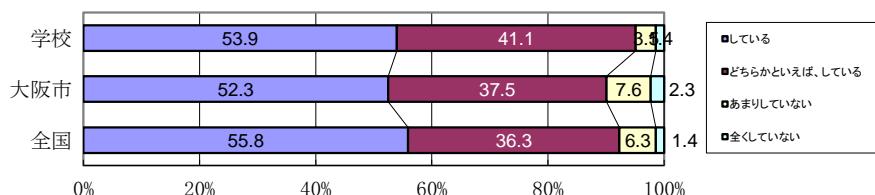
1

朝食を毎日食べていますか



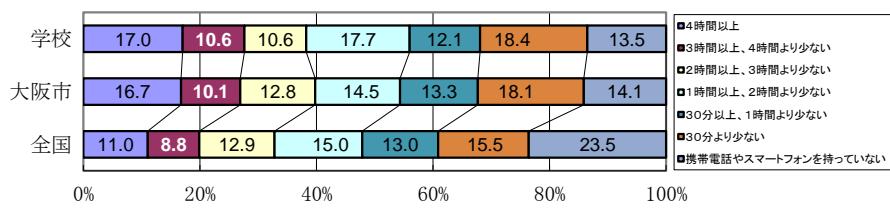
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



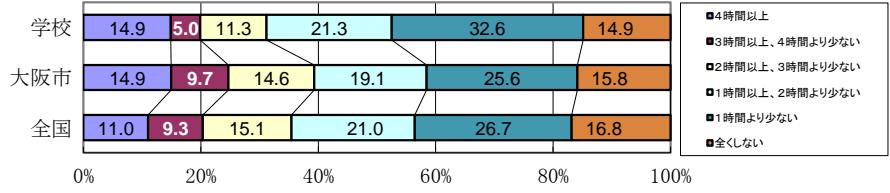
13

普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)



12

普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか



成果と課題

普段、1日当たり4時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている生徒の割合が、全国に比べて高い。また、1日当たりのテレビゲームなどに費やす時間も全国平均に比し高い割合を示している。これらの高い比率を少しでも下げる工夫をしなければならない。

今後の取組

携帯電話やスマートフォンで通話やメール等の使用について、今以上に啓発活動を実施していく。

家庭学習

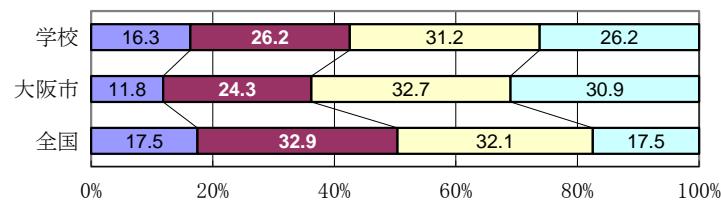
結果の概要

「家で、学校の授業の復習をしていますか」においては、全国比7.9ポイント、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」では5.4ポイント低い結果となった。

「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)」では、3時間以上は0.5ポイント低く、2時間以上3時間より少ないと0.8ポイント高かった。

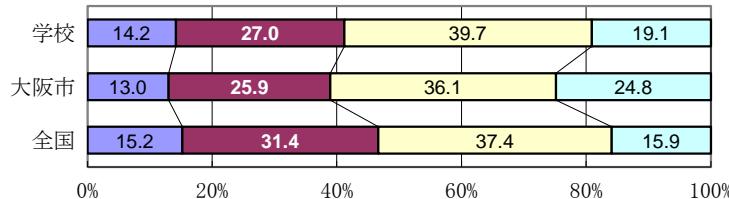
質問番号	質問事項
------	------

24
家で、学校の授業の復習をしていますか



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



- 3時間以上
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない

成果と課題

本校の課題であった家庭学習の時間は、全国平均に近づいてきた。今後さらにこの割合を高めていかなければならない。

今後の取組

家庭との連携をより密にし、家庭学習の時間を確保していく。

自尊感情・規範意識

結果の概要

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」では全国比5.3ポイント低かった。

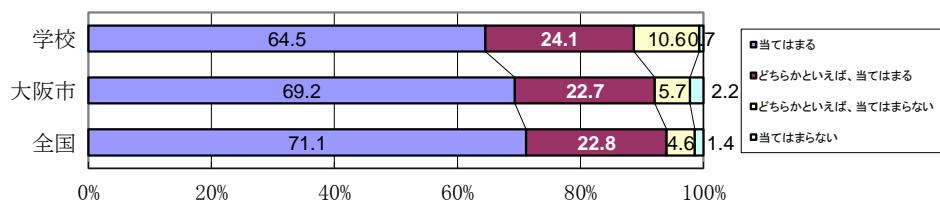
「学校の規則を守っていますか」では、全国比0.6ポイント高かった。

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では全国比12.4ポイント、「自分には、よいところがあると思いますか」では12.5ポイント低い結果となった。

質問番号 質問事項

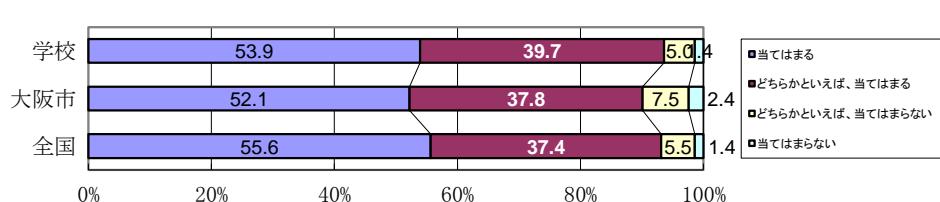
4

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



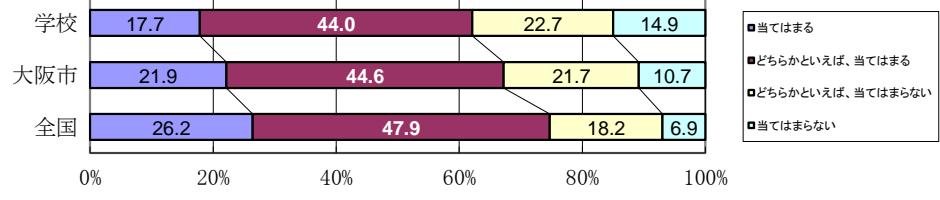
34

学校の規則を守っていますか



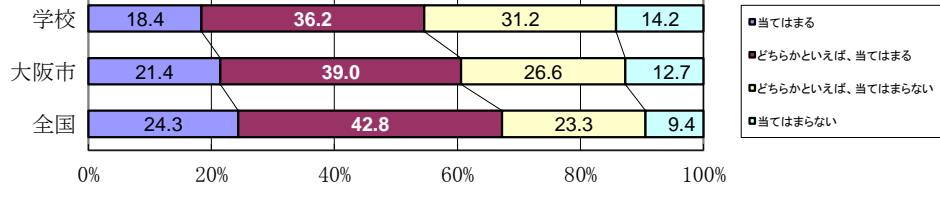
28

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



6

自分には、よいところがあると思いますか



成果と課題

規範意識は全国を上回っている。自尊感情が低いのが問題である。

今後の取組

各学年の行事などを通して達成感を味あわせる活動を様々に工夫していく。

学校・家庭・地域の連携

結果の概要

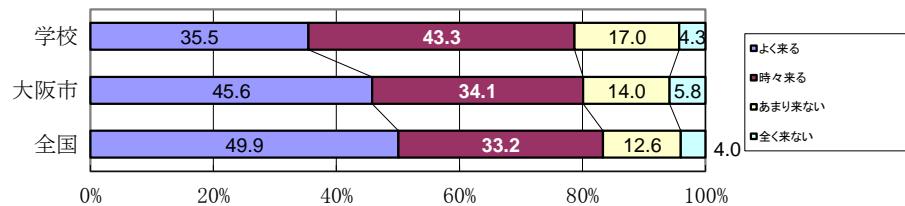
「家人の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」において、「よく来る」は14.4ポイント低く、「時々来る」は10.1ポイント高い結果となった。

「家人の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか」では全国比10.2ポイント低かった。

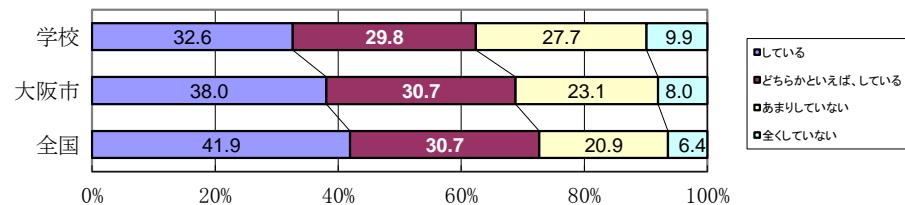
「地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか」では、全国比14.5ポイント低い結果となった。

質問番号	質問事項
------	------

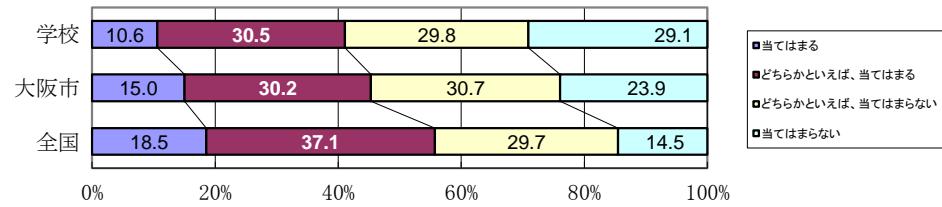
20	家人の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか
----	------------------------------------



19	家人の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話をしますか
----	--------------------------------



30	地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか
----	-----------------------------



成果と課題

「家人の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」の質問で本校は全国並びに

大阪市平均より低い結果を示している。また、地域や社会で起こっている問題や出来事に关心を示さない生徒の割合も高い。

保護者等への啓発活動を活発にしていかなければならぬ。

今後の取組

保護者への周知をプリントだけでなくホームページもより活発に活用し、徹底させていく。

学校組織の改善

結果の概要

「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか」においては、「よくしている」を選択、「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか」ではも「よくしている」を選択した。

「授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか」では本校は「年間1回から4回」を選択した。

質問番号	質問事項
------	------

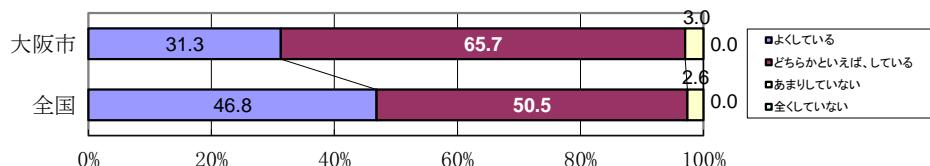
98【学校質問紙】
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

学校 「よくしている」を選択



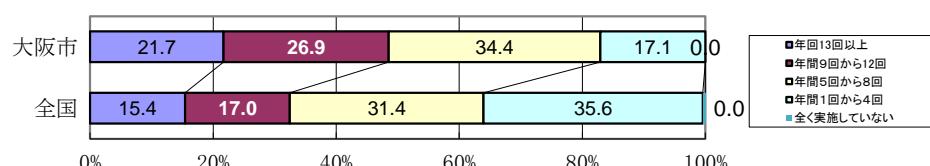
96【学校質問紙】
学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか

学校 「よくしている」を選択



89【学校質問紙】
授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

学校 「年間1回から4回」を選択



成果と課題

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる。また、学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、全員が研究授業に取り組むなど成果を残した。

来年度以降も、この取り組みを継続していき、授業力の向上につなげていきたい。

今後の取組

今年度、11月5日に研究授業を行い、これを契機として11月6日より研究授業を全教員が行った。

来年度もこの全員研究授業を実施し、授業力向上を目指していく。